



入道埼灯台利活用推進事業（灯台×ジオ×郷土料理の3つを結び付けて新しい観光事業に）

コンソーシアム名：入道埼灯台利活用事業実行委員会

対象灯台：入道埼灯台（秋田県男鹿市）

企画概要

事業名：入道埼灯台利活用推進事業

- 入道埼灯台では2024年度に「灯台×ジオ×郷土料理の3つを結び付けて新しい観光事業に」という調査・検証に取り組んだ。
- 今年度はそれをさらに活用していくプログラムにスパイラルアップさせる1年目と捉えた。
- 新しい観光コースとして、灯台を中心として周辺のジオパークの散策と『溶結凝灰岩』の見学コース及び郷土料理の魅力进行定着させる。
- そのための散策コースである遊歩道と海岸へのアプローチである見学コースのハード面の整備にも着手した。
- 昨年度初めて実施した「石焼フェス」というイベントをボリュームアップし、プラス要素として親子で参加できる新しい教育プログラムイベントも実施してスケールアップさせた。



魅力を再確認する、関係者勉強会の開催。

火山学が専門の秋田大学名誉教授の林先生に来ていただき、ジオパークガイドから7名、男鹿市文化ポーツ課から2名が参加し、「ツアー勉強会」を8月21日(水)に男鹿市ジオパーク学習センターで開催。改めて入道埼灯台が建っている地盤の「溶結凝灰岩」がとても貴重な自然遺産であることや、石焼料理の歴史を再確認した。

「石焼フェス&体験ツアー」をパワーアップして開催。

昨年初開催したイベント「石焼フェス&体験ツアー」が、今年は9月27日(土)、男鹿市と海保がこれまで実施していた「灯台まつり」と合同開催！
来場者約1,600人、灯台への来場者1,227人という、またまた記録的なイベントに！

親子参加型教育イベント影絵「入道埼灯台物語」を初開催。

11月1日(土)、影絵師・川村亘平齋氏を招いて教育プログラムイベント「入道埼灯台物語」を開催。参加者は灯台の歴史や石焼料理を学んだ後、ワークショップを経て影絵公演に出演した。灯台近くの廃校の体育館を活用し、内容及びスケールに大きな評価をいただいた。

利活用に採用され、遊歩道と手すりのハードが整備できた。

灯台前の原っぱに、歩き易くなるような遊歩道を整備。灯台を正面から見る事ができる半島の先端まで歩きやすくなった。また、溶結凝灰岩を観察できる海岸への歩道において、崩落の恐れがあった手すりの整備を実施した。



灯台を中心にしたモニターツアーを新しいコースとして定着させる！

昨年のテスト的に開催したモニターツアーを関係各所・関係者で再確認して共有する。
これまで灯台を中心としたジオパークの案内コースはなく、昨年調査・検証で「ガイドの会」の方と灯台を中心としたコースの体験ツアーを設定し、募集し実施した事例を踏まえ、今年度も灯台をメインにしたジオのコースの体験を定着させるツアーを企画・実施する。



試験開催したイベント「石焼フェス」を灯台の定番イベントに！

試験的に実施した「石焼フェス」を定番イベントにするため、今年度はさらに充実させるために、より地域及び自治体と連携し、入道崎灯台の恒例イベントとなるよう、企画・実施していく。



広い世代へ灯台を知っていただくため新しい教育プログラムイベントを企画

入道崎灯台×ジオ×郷土料理の関係性を、もっと広い世代に広めるため、親子をターゲットにした教育プログラムを企画し、地域の住民も巻き込んだイベントを企画・実施する。



目標

Plan / 計画時点

入道崎灯台×ジオ×郷土料理という、この灯台ならではのオリジナルな関係性と魅力を、さらに多くの人に知っていただき、灯台と地域を安定した魅力ある観光コンテンツにしていく。
2025年度では遊歩道と海岸へのコース整備も着手し、多くの人々が安全に入道崎灯台及び周辺を楽しめる場所に整えていく。



Do 実行 / 2025年12月時点の達成状況

①勉強会 ②体験ツアーを組み込んだイベント ③新しい教育プログラムイベント ④遊歩道と海岸へのハード整備 のすべてを2025年12月末時点で終了することができた。

企画運営パートナー

1

入道埼灯台周辺

駐車場で営業している食事・お土産処各社

→地域活性化・売り上げ及び来場者の増加



2

男鹿半島・大潟ジオパークガイドの会

男鹿市に登録・指名しているガイドの会の皆さん

→新規観光コースの設定及び発注の増加



3

地域の個人事業主の皆さん

若手で地域で事業や活動をしている皆さん

→地域活性化及びお客様と売り上げの増加、地元への貢献

4

男鹿温泉郷及び周辺の飲食店

灯台周辺の地元の各施設

→宿泊及び食事等の利用者増と魅力アップ



調査・検証を経ての2年目ということで、
多くの方・事業主とさらなる関係構築ができた。

1

入道埼灯台周辺 》》》 昨年の試験開催以上の来場があり、賑わった

駐車場で営業している食事・お土産処各社にとっては、昨年の開催同様、今年も1年間でいちばんといえる来場者があり、広大な駐車場がほぼ満車になるほどだった。恒例のイベントなるよう、各社より依頼をいただくようになっている。

2

男鹿半島
・大潟ジオパークガイドの会 》》》 ガイドの会メンバーとの
さらなる関係構築ができてきている

最初のツアー勉強会から始まり、イベント時の体験ツアー、さらには教育プログラムイベントまで、前年よりも頻繁に接点を持ち、灯台を中心とした知識の共有ができた。

3

地域の個人事業主の皆さん 》》》 前年には関係のなかった地域の方を巻き込んだ

調査・検証の前年には関係構築できなかった地域の方を、今年度は打ち合せ時から巻き込み、主催者サイドとして参加していただき、イベントを開催・実施できた。

4

男鹿温泉郷及び周辺の飲食店 》》》 イベントへの協賛及び参加もしてもらった

特に親子参加型の教育プログラムイベントにおいては、イベントへの協賛はもちろんのこと、郷土料理の親子体験にも参加していただき、関係性を強化できた。

👍 良かったこと



👍 ひとつ目のイベント「石焼フェス」に関しては2年目ということもあり、前年度の関係者及び自治体とも良好な関係で実施でき、とにかく多くのお客様に満足していただけるようなイベントに成長できた。新しい教育プログラムイベントでも地域の若手の参加があり、今後に向けての関係構築に貢献できた。

👍 今年度は2つのハード整備もあり、地元企業との協力体制を構築できたことにより、事業への協賛という新しい形を整備できたことも大きい。



反省点・改善案



利活用になった今年度4月から、自治体の担当者が人事異動で変わったため、役所ならではの変化に対応するという苦労があったが、臨機応変にその都度コンセンサスを得た。そういう対応をスムーズにすることが大切だと改めて感じた。



今後の自走に向けて、さらに地元企業や地元事業者、若手との関係をもっと増やし、もっと関係構築していくことの必要性を感じた。

事業活動として 何をするのか

～価値を提供する源泉となる活動～

01

事業活動その1 ツアー勉強会の開催

事業活動その1：ツアー勉強会の開催

新しいツアーコンテンツのための勉強会を開催

灯台を中心としたジオパークガイドのコースは、昨年まではなかったため、前年度の調査・検証で初めて新しいコースとして体験ツアーをテスト開催。その復習とツアー内容の再確認のための勉強会を開催する。



ツアーの内容等を勉強・確認

◇秋田大学名誉教授で火山学を専門とする林教授を講師に、入道埼灯台の下にある「溶結凝灰岩」がどのようにしてできたか、などの勉強会と体験コースの魅力を再確認する。

事業活動その1：入道埼灯台の地盤と郷土料理に使う特殊な石について学ぶ

1 ツアー勉強会の開催

- ・ 8月21日に男鹿市ジオパーク学習センターにて、勉強会を開催。参加者11名が、林名誉教授の火山活動の授業を中心に学習し、灯台を中心としたジオコースの内容や魅力を再確認した。



良かったこと



 調査・検証で新たに設定され、今後のジオパークの新コースとしても期待されている「灯台を中心としたコース」について、参加者全員が本コースについて改めて学び、その魅力と価値を再確認した。



反省点・改善案



ジオパークのガイドの会に皆さんにはほぼ認識いただける環境を作ってきたが、今後は郷土料理である「石焼料理」を提供する料理店やホテルなどの方にも、同じようにこの入道埼灯台の地盤の歴史やその特殊な石について、共通の知識を持ってもらえるような勉強会の機会があると、もっと観光のお客様に説明できるようになると思う。

02

事業活動その2 イベント「石焼フェス」と 体験ツアー2025の開催

事業活動その2：イベントと体験ツアーの開催

2回目の開催となるイベントのパワーアップと体験ツアーの定着

調査・検証で初開催となったイベント「石焼フェス」をよりボリュームアップさせて、さらに地域を巻き込んで開催。もちろん、灯台×ジオ×郷土料理の体験ツアーも募集し開催する。



事業活動その2：イベント「石焼フェス」と体験ツアー2025の開催

9月27日に 1 第2回「石焼フェス」と 体験ツアーを開催

- ・今年度は海保と男鹿市とも協力して、「入道埼灯台まつり」と同時開催とし、好天に恵まれた9月27日にイベントを開催。
灯台無料開放、なまはげ太鼓演奏、よさこい演技披露、体験ツアーを実施。
海底透視船は残念ながら波が高く運航できなかったが、昨年以上の約1,600名の来場者という記録的なイベントとなった。





👍 良かったこと



天気にも恵まれ、昨年の第1回を上回る集客のイベントとなった。さらに、集客力もアップできるよう、海保・男鹿市と連携し、「入道崎灯台まつり」との合同開催を調整した結果、予想以上の盛況となった。これは今後のイベント継続への大きな励みになったといえる。

すでに地元でも、このイベント開催に大きな期待があり、男鹿市にとっても灯台のある入道崎のイベントとしては定着したいという思いがあるかと思う。



反省点・改善案



今後の課題は、再来年に向けてイベントが自走できるようになるには、どうすればよいか？ という最大の問題に取り組みながら、できればまずは来年度も継続開催できるように取り組んでいきたい。また、さらに地元事業者、個人との関係性を構築し、多くの人を巻き込むような流れを作っていく必要があると感じている。

03

事業活動その3 教育プログラムイベント 「入道埼灯台物語」の開催

事業活動その3：教育プログラムイベントの開催

初の開催となる新しい教育イベントで地元を巻き込む

イベント「石焼フェス」以外で、灯台×ジオ×郷土料理を新しい方法で子供たちも学べるようなプログラムを！という趣旨で考えた新規の親子参加型教育プログラムイベントを計画。子供たちが入道埼灯台にもっと興味を持ち、歴史や物語を学べるようなイベントであり、地元の方も楽しめる灯台が主役の影絵のイベントを考えた。



事業活動その3：影絵「入道埼灯台物語」を開催

1 11月1日に 影絵「入道埼灯台物語」 イベントを開催

- ・入道埼灯台から車で5分程度の距離にある、廃校になった中学校の体育館を活用して、影絵師・川村亘平齋さんによる影絵のイベント「入道埼灯台物語」を開催。親子での参加者を募集して、最初に灯台・ジオ・郷土料理について学び、石焼料理も実食。その後、影絵に出演するためのワークショップに参加。入道埼灯台の歴史やストーリーを影絵を通して学んだ。約80名の地元の方を中心とした観客の方にも楽しく学んでいただいた。





👍 良かったこと



子供たちが楽しんで灯台×ジオ×郷土料理を学ぶという意味では、とても意義があり、さらに楽しんでもらえる新しいイベントとなった。灯台の歴史やジオパークとしての魅力、さらには地元の物語を影絵で表現するという主演者の川村さんのパフォーマンスは、とにかく素晴らしいものだった。灯台からすぐの廃校を利用したことも、地元の人にとっては非常に有意義だったといえる。



反省点・改善案



当日は風が強く、残念ながら親子の参加者は灯台の上部への登頂と海岸での溶結凝灰岩の見学はできなかったが、目の前で石焼料理を調理する様子を見学し、さらにワークショップに参加して影絵にも出演するという貴重な体験を提供できた。

同じ内容での連続開催は無理かと思うが、できればまずは来年度も形を変えながら新しい仕掛けを開催できるように取り組んでいきたい。

04

事業活動その4

遊歩道及び海岸へのアプローチのための ハード整備事業

事業活動その4：遊歩道及び海岸へのアプローチのためのハード整備事業

灯台を安全・安心に見学及び楽しんでいただくためのハード整備

入道埼灯台を正面から見る事ができる、半島の先端への遊歩道を整備することで、多くの人々が新しい灯台の「顔」を見ることができるようになる。また、「溶結凝灰岩」を実際に見るためには灯台の横から海岸へ下りる必要があるが、これまでは急な坂道にある手すりがあまりに古く、崩壊しそうだった。これを整備し、どちらも安全・安心に灯台を楽しめるようにしたい。



事業活動その4：遊歩道及び海岸へのアプローチのハード整備事業

遊歩道と

1 海岸へ行くための手すりのハード面の整備

- ・入道埼灯台周辺は比較的歩きやすい環境ではあるが、灯台が海側から見える、いわゆる灯台の正面へは、どうしても歩きにくい条件だった。今回、石で遊歩道を整備したことで、灯台の正面の顔が見やすくなった。また、「溶結凝灰岩」を見るためには灯台下の海岸へ下りる必要があったが、これまでの崩壊しそうな手すりを整備することで、子供たちを連れて見学できるように整備できる。





👍 良かったこと



安全・安心に入道埼灯台を見て、楽しんでもらえる環境を作れたことは、灯台の新しい魅力作りという点からも、ハード部分で貢献できた。

入道埼灯台の場合は、どうしても冬には閉鎖されるほど厳しい天候のため、できるだけオンシーズンでコンテンツを増やして、楽しめる要素を増やしていくことが重要になってくる。なかなか普段はできないハード整備に着手できたことは大きい。



反省点・改善案



金額的な問題で、遊歩道も海岸への手すりも1年度でできる範囲で取り組んだ。できれば、次年度では今回完成した遊歩道の先端から海岸への入り口までの整備と、手すりの残った部分の整備も取り組んで、さらに安全・安心を整備していきたい。

05

事業活動その5

関係者反省会 & 討論会の開催

事業活動その5：関係者反省 & 討論会の開催

年度事業を振り返る関係者反省会・討論会の開催

1年間の各事業を振り返り、関係者による反省会・討論会を開催した。男鹿市および灯台周辺の住民や飲食・お土産店の経営者さんからなども話を聞き、参加者で共有した。



1年間の事業全体を振り返って意見交換した

- ◇事前に男鹿市と灯台周辺の住民、飲食・お土産店経営者の方からの意見を収集し、ジオガイドの会会長、現地コーディネーターと開催し意見を共有。

事業活動その5：年間事業を振り返っての反省点・意見の共有

1 反省会&討論会の開催

- ・12月に男鹿市と灯台周辺の住民の方、灯台下で飲食・お土産店経営者の方から、年間での事業に関してヒアリングを実施。
- ・その意見も持ち寄り、1月に入ってからジオパーク学習センターにて、ジオガイドの会会長、地元コーディネーター、実行委員会のメンバーにて反省会&討論会を開催。



討論会で出た意見

 男鹿市からは「今年度の取り組みについては、イベント実施やハード整備の双方において大きな成果が得られたとの評価があった。次年度についても、引き続き実行委員会と連携しながら、継続的な取り組みを進めたい」との意向が示された。また灯台周辺の住民の方や経営者さんからは、「登れる灯台という特性を活かすため、灯台上部から望む景観について、鳥海山や白神山地など主要な山岳や目標物の方角が分かる案内表示があると、来訪者の満足度向上につながるのでは」との声が寄せられた。

ジオガイドの会からは、溶結凝灰岩を使って子供たちが喜ぶような仕掛けを新しく作りたいと思っていることや、地元コーディネーターからはインバウンドの外国人に向けての新しい施策も次年度ではできないか？というような意見が出た。



反省点・改善案

 3年目の利活用事業に向けて、それぞれから良かった点、さらに深めることができる改良点など、ソフト面・ハード面どちらに関することでも様々な意見をいただいた。次年度の申請に向けて、これらの反省点・意見を参考にしながら、入道崎灯台の持っている素晴らしいポテンシャルを多くの人に知ってもらえるような活動ができるように考えていきたい。

顧客ターゲットと 提供するベネフィット

事業活動その2：イベントと体験ツアーの開催

メインターゲット

- 1 イベントは若いカップルから親子連れ、及び余暇を楽しんでいる高齢者まで

ベネフィット

灯台そのもの及び周辺を散策しながら、郷土料理の「石焼料理」はもちろんのこと、石焼に関する様々な料理を味わうことができ、男鹿の郷土芸能なども体験できる。

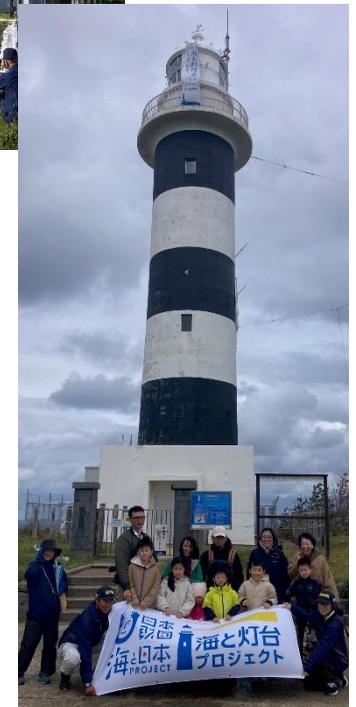
事業活動その3：教育プログラムイベントの開催

メインターゲット

- 1 親子を中心とした家族

ベネフィット

親子で参加できるイベントで、入道埼灯台とジオの歴史的なストーリーを子供が参加する影絵のライブステージにすることで、参加型のライブとして、親子で楽しめて、男鹿の歴史も勉強できる。



調査・検証よりもさらに入道埼灯台が注目されるようになった

活動
2

9月27日に
第2回「石焼フェス」と
体験ツアーを開催

<メインターゲット> イベントは若いカップルから親子連れ、
及び余暇を楽しんでいる高齢者まで

第1回の昨年度、入道埼灯台前の広大な駐車場がこれだけ埋まるのを久しぶりに見た、という盛況だったが、今年度はさらに増えた約1,600人という来場者の記録的なイベントになった。海保・男鹿市との調整で「入道埼灯台まつり」との合同開催ということもあるが、珍しい石焼にまつわる料理を集めた食べる楽しみを中心に、親子から高齢者までが楽しめる内容を灯台を中心に企画・実施できたことが大きい。

活動
3

1月1日に
影絵「入道埼灯台物語」
イベントを開催

<メインターゲット> 親子を中心とした家族

影絵師・川村亘平齋さんによる、影絵のライブパフォーマンス。もともと、川村さんは、日本各地でフィールドワークをしながらその土地の魅力を引き出していたアーティスト。それならば入道埼灯台は素材として魅力的ではないか？という発想で企画した。親子で灯台×ジオ×郷土料理を学び、ワークショップに参加しながらライブパフォーマンスにも子供が参加して灯台の魅力を学ぶイベント。廃校になった学校の体育館を使うことで地域活性化にも寄与し、もちろん入場無料で観覧していただけるイベントとなり、灯台の魅力を新しい視点で知ってもらうことができた。



👍 良かったこと

- 👍 入道埼灯台の持っている魅力のポテンシャルの高さを、これまでにないいろいろな施策で、実施できたのではないかと実感している。
- この灯台プロジェクトのおかげで、秋田県で、男鹿市で、だんだん観光地としてフレッシュな魅力がなくなってきた感のある入道埼灯台が、少しでも再発見的に注目される要素を増やすことができていると感じる。



☹️ 反省点・改善案①

活動2, 3のイベントにおいては、今後、どうしたら自走できるか? という大きなテーマを意識しながら、課題として解決できるように対策を練っていく必要がある。そのためには男鹿市という自治体との連携も欠かせなく、地元企業の協賛や関係性強化が必須であると考えている。

☹️ 反省点・改善案②

ハード整備活動においても、男鹿市との関係は必須条件であることから、良好な関係を維持しながら引き続き対応していきたい。また地元の若手で、今後の男鹿をまとめる人材との関係強化と引き継ぎも考えながら、対応していくべきであると考えている。

チャネル

～顧客に事業の価値を届ける
経路、確認する経路～



広報活動及び認知のための施策

ポスター、チラシ、Instagram、マスコミへのリリースによる各媒体からの取材、主催及び協力会社・関係者からの情報発信、男鹿市役所及び市役所関係各所での告知。職員へのメール告知、男鹿温泉郷内の各施設でのポスター・チラシでの案内等。

興味関心の獲得

入道埼灯台及びイベントの情報を、上記広報活動を中心に発信。

事前予約による参加者の獲得

体験ツアーに関しては、昨年同様、メールによる参加者募集での事前予約で受付。

参加者への事業価値の獲得

体験ツアー及び教育プログラムでは、参加者アンケートを実施して、満足度・各意見・反省点・感想などをいただく。



イベント「石焼フェス」は来場者が大幅に増加！
多くの参加者には灯台の魅力を発信できたと思う。

広報活動及び認知のための施策

基本的にイベントなどの告知に関する経路については、対応できたと思う。男鹿市内でも、飲食店にポスターを置いてもらうなどの草の根運動も展開できた。

興味関心の獲得

地元新聞社の地域担当との関係も良く、毎回訪問しては情報を発信できた。地域の方にも、今年度は広がりのある広報活動になったと思う。

事前予約による参加者の獲得

「石焼フェス」及び教育プログラムイベント「入道埼灯台物語」のどちらに関しても、事前予約での参加者を確保できた。欲を言えば抽選しなければいけないぐらいまで増やしたい。

参加者への事業価値の獲得

参加者へのアンケート調査では、満足度は非常に高いという回答が多かった。灯台を中心としたテーマを理解し、喜んでもらうことができたとは感じている。

 良かったこと

初年度のイベント「石焼フェス」が2回目の開催となり、特に地域・地元の方からは期待感が大きくなっていると実感している。

これまで、だんだん観光客も少なくなり、お土産・飲食のお店が減っていく中で、灯台を中心としたイベントで1日に約1,600人が来場したことは、告知・広報などの施策がそれなりにしっかり伝わっていると認識している。ただし、現状に満足することなく、さらなる入道埼灯台への集客と認知を広めていきたい。



反省点・改善案



今年度の事業の中で、教育プログラムイベントに関しては内容は間違いなく意義あるものだったが、地元男鹿市の小学校のイベントと偶然にも日程が重なってしまい、地元の子供たちの参加が少なかった。この点は反省点としてあり、子ども参加型のイベントを開催するときには、教育関係者とのスケジュールの連携が必須であることを次回に改善していきたい。

顧客との長期的な
関係構築のために
実行できる施策

ハード整備に着手

ハード面の整備により年間を通して多くの灯台へのお客様が、安心して灯台の「表の顔」といえる海側からの灯台を安全に見ることができるようになる。

また、入道埼灯台の地盤である、貴重な7,000万年前の『溶結凝灰岩』が見られる海岸へのアプローチ階段の整備をすることで、安全に貴重な岩を観察できるようになる。

この2点の整備により、ジオパークガイドの会の皆さんも、安全安心に灯台を中心としたコースにお客様を案内できるようになる。

遊歩道の整備



手すりの整備



1 遊歩道の整備

入道埼灯台周辺は比較的歩きやすい環境ではあるが、灯台が海側から見える、いわゆる灯台の正面へは、どうしても歩きにくい条件の場所だった。今回、石で遊歩道を整備したことで、灯台の正面の顔を見る位置への歩行が容易となった。

2 手すりの整備

灯台下の海岸にある「溶結凝灰岩」を見るためには坂道で下りる必要があったが、これまでの崩壊しそうな手すりを整備することで、子供たちを連れて見学できるように安心・安全に歩けるようになった。



👍 良かったこと



安全・安心に入道埼灯台を見て、楽しんでもらえる環境を作れたことは、灯台の新しい魅力作りという点からも、ハード部分で貢献できた。

入道埼灯台の場合は、どうしても冬には閉鎖されるほど厳しい天候のため、できるだけオンシーズンでコンテンツを増やして、楽しめる要素を増やしていくことが重要になってくる。なかなか普段はできないハード整備に着手できたことは大きい。



反省点・改善案



以前よりもはるかに、ジオパークのガイドの皆さんがガイドしやすい安全・安心のハード整備に着手できたが、ガイドの会のコースとして、入道埼灯台を中心とした案内のコースを今よりも定着させていきたい。

事業に必要なリソース ～人、物、情報、許認可～

01

人、物、情報、許認可

人

企画総合プロデューサー、企画進行ディレクター、各行事及びイベント運営スタッフ、地元協力者及び団体、男鹿市、観光協会、ジオガイドの会、地元市会議員、男鹿温泉郷、秋田海上保安部、地元国立大学名誉教授、入道埼灯台周辺事業社

物

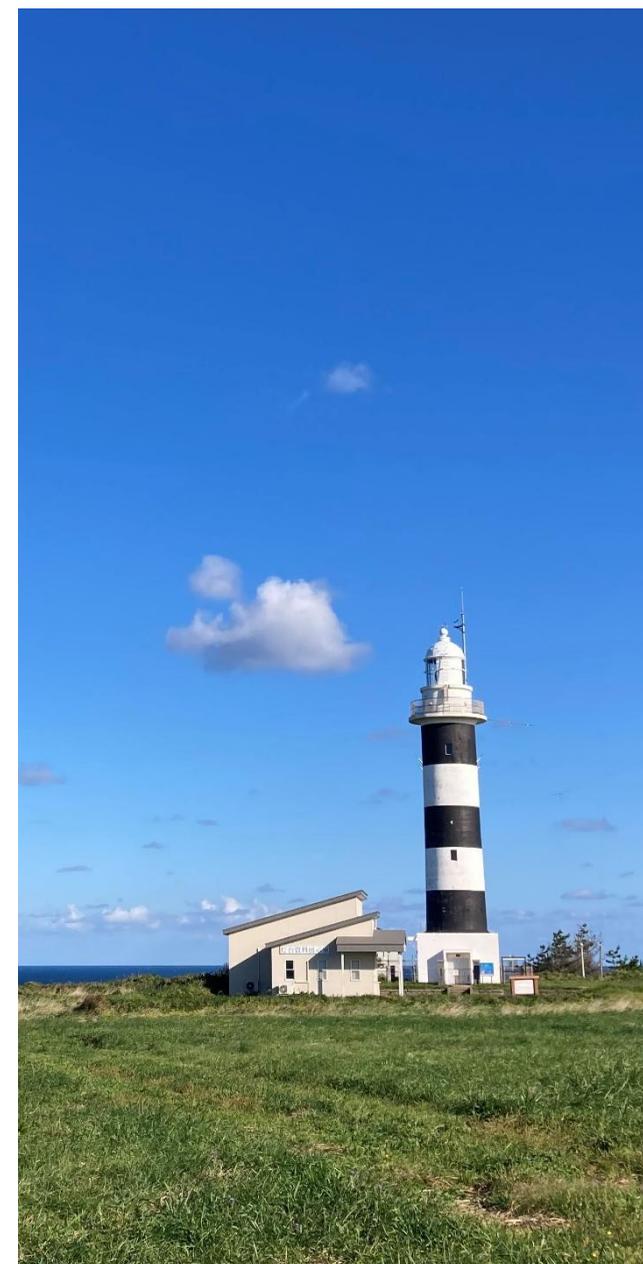
イベント実施に関するテント・椅子等の備品、ポスター、チラシ、ネット関係各種

情報

地元有識者

許認可

男鹿市→市有地使用及び開発許可、
秋田市保健所→飲食店出店許可、
秋田海上保安部→灯台関係許可



1 人

新しい地元の若手や、ガイドの会も参加者が増え、多くの関係者と連携できた

- ・勉強会や体験ツアーで、ジオガイドの会の方の参加者が増え、関係を構築出来てきている
- ・イベント「石焼フェス」では、灯台入り口の飲食・お土産屋さんの協力が不可欠だが、2回目ということもあり、より協力をいただいた。
- ・新規イベントの影絵「入道崎灯台物語」では、地元の若手リーダーも参加し、今後の自走に向けての新しい流れの第一歩を作れた。

2 物

告知では男鹿市に多大な尽力をいただき、地元との関係性を広げた

- ・イベントに関してはポスター、チラシの告知ツールを役所からの依頼ということで男鹿市内各所で配布していただき、周知していった。
- ・その他、入道崎灯台周辺の飲食・お土産店はもちろんのこと、温泉郷の各ホテル、及び市内の飲食店を中心に掲示をお願いした。

3 情報

ジオガイドの会と地元有識者などとの連携強化

- ・調査・検証時から協力いただいた地元有識者はもちろんのこと、前年以上のジオガイドの方との関係を築くことができた。

4 許認可

今回のハード整備に関してはほとんど男鹿市とのやり取りだったが、最終的には無事にやり取りできた

- ・2つのハード整備の管轄が男鹿市であったことから、男鹿市と実行委員会との合意書から始まり、特別地域内工作物改築許可申請書、特別区域内土地の形状許可申請書など必要書類に対応して完成できた。



👍 良かったこと

👍 イベントに関しては、2回目の「石焼フェス」ではとにかく来場者が増えたことで、灯台の恒例のイベント感が周知出来てきたこと。また灯台ふもとのお店の方が協力はもちろんのこと、とにかく開催自体を喜んでくれていることが大きい。

また、新規の影絵のイベントに関しては地元のリーダーもコーディネーターとして参加するなど、調査・検証にはなかった人材の関わりができた。

さらにハード整備で2つの事業に着手できたことで、さらに入道埼灯台を安全・安心に楽しめるような環境にできたことは、今年度の最大の成果ともいえる。



反省点・改善案



今後の自走に向けて、さらに多くの地元企業及びイベント等のリーダー・ディレクターなどになりうる人材との関係構築が必要になってくる。男鹿市は比較的好調な土建関係の企業が多いことから、接点を増やし、金銭面での関係も作っていききたい。

メディア露出

9月26日 秋田魁新報marimari掲載

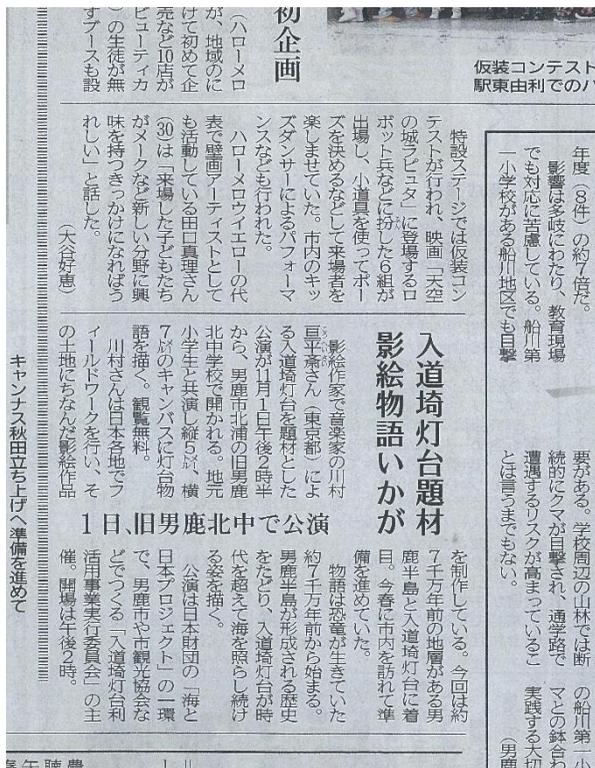


9月27日 秋田テレビ ニュース番組「LIVE News AKITA」



秋田テレビ テレビ番組「海と日本プロジェクト」

9月27日 フリーペーパー「あおぼ」掲載



10月30日 秋田魁新報掲載

■ のべ4媒体

- ・ 紙媒体：2紙
- ・ テレビ媒体：1局

(計放送時間：約25分)



秋田テレビ テレビ番組「海と日本プロジェクト」



今後について

A. 事業について ～入道埼灯台人気をもっと高めること～

課題

こんなにも魅力あふれる入道埼灯台をもっともっと知ってもらい楽しんでもらうこと

調査・検証から利活用の1年目を終えて、入道埼灯台は素晴らしい魅力にあふれていると実感している。これまで、灯台に関するイベントもなく、ジオのコースにも入っていなかった。郷土料理とのかかわりにも触れていなかった入道埼灯台。要するにその魅力を伝えていなかった、というマイナスからのスタートだったと言える。



施策

- ◎イベント「石焼フェス」のレギュラー開催。
- ◎子どもたちが「灯台×ジオ×郷土料理」の関係性を学ぶ教育プログラムを毎年開催できるような環境整備。
- ◎入道埼灯台の持っているポテンシャルの高さを、多くの人にもっと知ってもらう活動が必要。

B. 実施体制について～若い地元の個人や優良企業をもっと参加させること～

課題

男鹿を愛する地元の若手をもっと巻き込み地元の優良企業に参加してもらおう仕掛け作る

こだわりを持ちながら男鹿LOVEを持って地元で活動している若手をもっと多く巻き込んでいく関係の構築が必要。また、地元の優良企業との関係を強化できる方法や施策を模索しながら、参加してもらえようような取り組みが必要になってくる。



施策

- ◎男鹿の地元に対して思い入れのある若手ともっともっと強いつながりを作っていくための、こちらからの接触機会を増やすような動きをしていく。
- ◎これまでの2年間で知り合った地元の方から、さらに広がるようなコミュニケーションを積極的に作る。
- ◎ジオパークガイドの会や男鹿市役所の関係者との関係強化と、地元企業との協力関係構築。

C. 収支について～できるだけ多くの収益を生む仕掛けを構築すること～

課題

イベントはどうしても利益を生む仕掛けが難しいができるだけそこを解決できるように構築したい

将来的な自走を目標とするならば、イベントに関してはどうしても同じ内容では利益を生むような仕掛けは難しい。もちろん自治体からの協力は今後必要になってくるが、その部分も考えながら次年度につながるように取り組んでいきたい。



施策

- ◎イベントに関しては、自治体の協力は必須。
- ◎どれだけ利益を生むような内容に変化していけるか、自走に向けて取り組み・施策を考えていきたい。

イベント「石焼フェス」のレギュラー開催と、
『入道埼灯台×ジオ×郷土料理』の関係を学ぶ教育プログラムの仕掛け。
この2つを中心に入道埼灯台の溢れる魅力を伝えていく。

【今後の計画】入道埼灯台の魅力をこれからも伝えることができるように

入道埼灯台を中心に、郷土料理の石焼鍋のような”赤く燃える魅力”を広める

💡 「石焼フェス」のレギュラー開催

💡 教育プログラムの新規アイデア

💡 広く多くの人への
入道埼灯台への興味喚起

💡 地元との強力な関係構築



事業名：入道埼灯台利活用推進事業

助成金終了後、本事業は新たな灯台利活用モデル事業が定義する「自走化4分類」のうち、以下を目指します

本事業が 目指す型	分類	自走化の方法	中心となる事業者
	I ビジネス型	灯台および付属施設等をホテルなどに利活用する、 または 灯台および周辺地域の魅力をコンテンツとして利活用することで、 <u>ビジネスとしての収益化を達成し、自走する。</u>	民間事業者
✓	II 非営利 収支均衡型	灯台及び周辺施設等を活用し、 イベント開催や観光ガイド等を組織しながら、主として、 <u>収支均衡となるような小規模の地域活性化事業を行い、 非営利団体として、自走する。</u>	非営利任意団体、 NPO等
✓	III 自治体 補助金型	自治体が主体となり、 新たに地域課題や観光資源の一つとして 灯台及び周辺施設等を位置づけることにより、 <u>自治体の予算やリソースが投入され、自走する。</u>	自治体
✓	IV お祭り協賛型	灯台に係るイベントを開催することで、 灯台を含むエリアの新たな価値と集客・PR効果を創造し、 <u>地元自治体や地域企業からの協賛金や、出店料、 参加者から入場料などの イベント収益によって、自走する。</u>	イベント事業者、 放送局

資料

事業活動その1：ツアー勉強会の開催



事業活動その2：イベント「石焼フェス」と体験ツアーの開催



事業活動その3：教育プログラムイベント・影絵「入道埼灯台物語」と体験ツアーの開催

灯台 × ジオパーク × 郷土料理
 影絵師 川村亘平斎による
入道埼灯台物語

また恐竜が生きていた時代の7,000万年前から始まる入道埼灯台の物語を、川村亘平斎がタテ5m×ヨコ7mのキートンバスに影絵で繰り広げる、壮大なパフォーマンス!

2025 **11.1** SAT (土曜日)
 会場 旧男鹿北中学校体育館 (静寂になった男鹿の神話です!)
 開演 14:00 ~ 閉演 14:30 ~
観覧無料

参加者募集! 小学生20名限定!
 E-mail: info@happyendes.jp
 申込締切 10月26日



事業活動その4：灯台を中心とした遊歩道と海岸への手すりのハード整備



事業活動その5：関係者反省会&討論会

